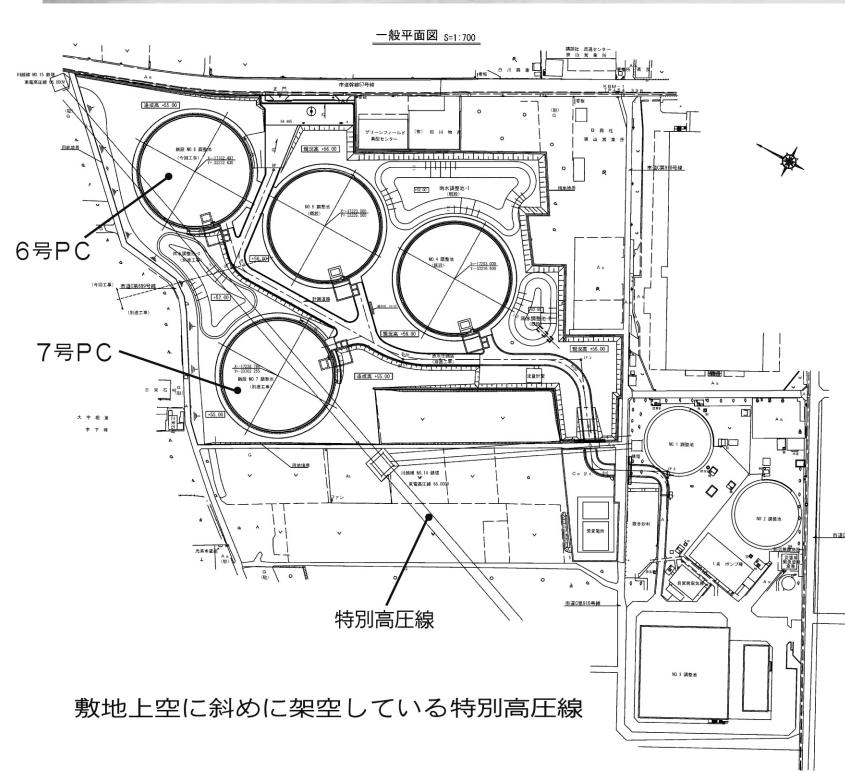


全国的に水道の災害対策が推進される中で、埼玉県企業局では浄水の容量確保のため貯水タンクの整備事業を進めている。この一環として新設されることとなった上赤坂中継ポンプ所6、7号送水調整池予定地の上空には、特別高圧送電線が架設しており、従来通りのドーム屋根工法の採用が叶わない状況下にあった。そこで採用されたのがアルミ覆蓋だ。今年6月開催の現場見学会(アルミニウム合金製屋根工法協会主催、埼玉県企業局協力)には、官民から多数の見学者が集まつた。今回発注者である同局とともに、部材製作や施工時の下請、また見学会当日、説明に立った同協会会員のゼオノースの担当者、また同協会技術委員長に、それぞれの立場から当該施設やアルミ屋根工法に関する話を伺つた。



アルミ覆蓋により完成した6号送水調整池



敷地上空に斜めに架空している特別高圧線



池内に立てられた柱と歩廊

現在までの実績は
実績を
協会

発注者の視点に立つて

はーとー9件(タンク基数)でー24件(覆蓋)、覆蓋では16件(池数)である。池の実績があります。

技術開発について

当協会は、法の普及で不断水ドーム改修工事。[「コーンルーフ工法」]と「ウォーターラッピング工法」を開発し、これらが主流となりました。

最後に言

い。アルミ覆蓋が採用された実績を基に、平成14年に設立されました。以来、水道用PCタンクにアルミニウム合金製屋根および構造部材を採用いたしました。これまで屋根で

おり、これまで屋根で

あります。

また、アルミは熱膨張

の影響を受けやすいと

あります。

今までの実績は

あります。</